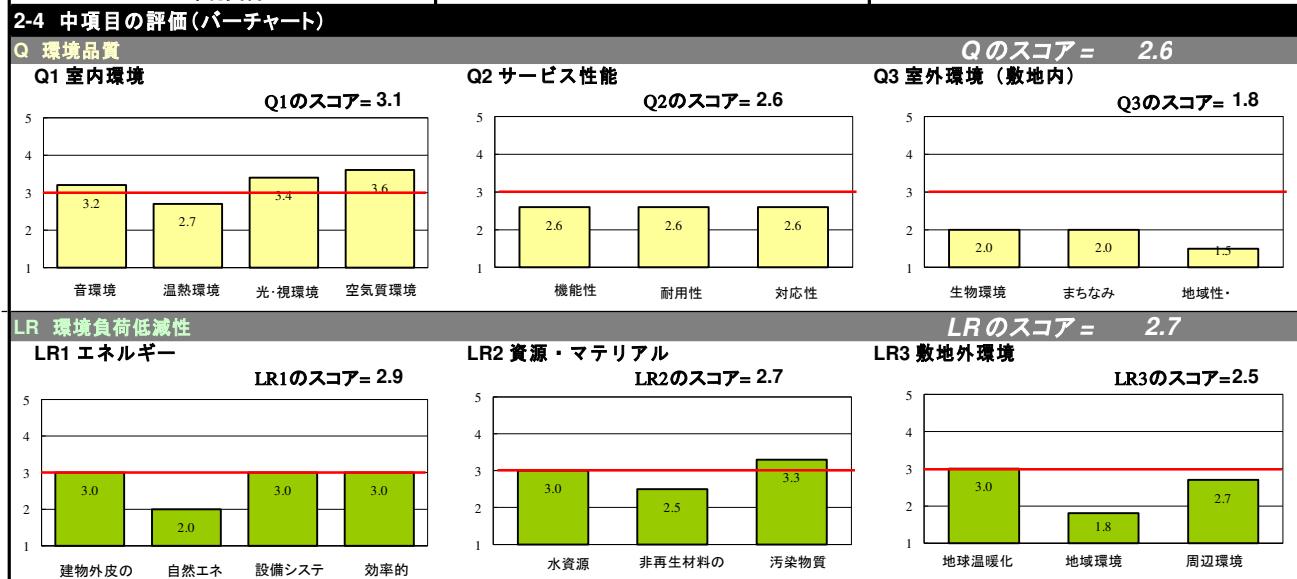


CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)茨木市下穂積2丁目学生寮計	階数	地上7F
建設地	大阪府茨木市下穂積	構造	RC造
用途地域	準住居地域、防火地域	平均居住人員	127 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年6月20日
敷地面積	1,368 m ²	作成者	株式会社都市建一級建築士事務所
建築面積	652 m ²	確認日	2023年6月21日
延床面積	3,227 m ²	確認者	株式会社都市建一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		その他
融合		特になし
隣地を挟んで幹線道路はあるが、計画地は東面しか道路に面しておらず、道を挟んだ向こうが川という立地なので、敷地内に可能な限り緑地を設け、周辺の環境と調和するよう配慮しました。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
日中の光をなるべく取り込みたいと考え、住戸の半数以上が南に面している。 また幹線道路の防音対策を重視し、専用部の居室サッシを遮音性能T-2にしている。	給排水配管は耐用年数の長いものを採用し、将来の維持管理にも配慮した設計となっている。	敷地内に見通しの悪いスペースが出来ない植栽計画としました。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特になし	出来る限り有害物質を含まない建築材料を使用する計画としました。	利便性を考慮した適切な量の駐輪スペースを敷地内に確保し、代替交通手段の一因になるよう計画しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版

受付番号

R5- 0073

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)茨木市下穂積2丁目学生寮計画						
建設地	茨木市下穂積							
用途／区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—	—
	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	—
エネルギー消費量の報告							対象外	

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.0	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	1.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	1.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.0	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		